

令和4年度

栄町商店街の活性化と魅力発信事業

事業実績報告

高梁栄町商店街振興組合

栄町商店街の活性化と魅力発信事業

前年の課題と取り組み

① 継続的な連携活動

- ・今年度の成果と課題を中学校と共有し、次年度以降も引き続き中学校との連携を図っていく。
- ・地域団体、図書館等との連携により、マルシェの開催を定期的に行い、集客の定着化と活性化を図っていく。

② 空き店舗の解消

- ・中学生や高校生が集まりやすい場所を商店街に設けることで、人通りを増やしていく。
→集客の定着により、空き店舗を活用した出店へとつなげていく。



前年度の課題から今年度の取り組みを実施

栄町商店街の活性化と魅力発信事業

事業の具体的な内容

①中学生・高校生とのコラボ企画

「空き店舗のリノベーションと活用」

- ・商店街内の空き店舗 1 店舗を借り上げて、高校生や大学生が集える環境（空間設計・Wi-Fi設置等）を整備した。
- ・空き店舗を常時開放し、誰でも気軽に集える空間として提供。また、チャレンジショップとして、定期的にイベントやワークショップなどを開催し、多年代の集客を図り商店街の活性化につなげた。
- ・集客ポイントとして、高梁中学校美術部による、空き店舗のシャッターアートを実施した。

○ボードゲーム交流会

R4. 9. 9 / 12. 10 R5. 1. 21



○シャッターアート



○ワークショップ、大学ゼミ、セミナー開催



栄町商店街の活性化と魅力発信事業

事業の具体的な内容

②前年度継続企画

「商店街にぎわい創出イベントの開催」

- ・栄町商店街から、市全体の賑わいにつながるようなイベントを開催。
- ・商店街だけでなく、地域の団体（青年団体、商工会議所、大学、行政等）と連携し、土曜夜市やマルシェを数回開催した。
- ・回を重ねるごとに関係する団体も増え、イベント内容の充実が図れた。

○でーれー栄町商店街フェスタ

R4.7.17



○土曜夜市 & カレーフェスタ R4.7.23



○でーれー栄町商店街クリスマスマルシェ

R4.12.4



栄町商店街の活性化と魅力発信事業

事業により効果検証と数値達成度

① 商店街の往来人口が増えた。

- フェスタ・マルシェ総参加者数 約1,000人により、一時的な商店街への来訪が増え、平日や休日の往来への影響が見られた。
- 平日の往来人数 1,000人から1,050人
休日の往来人数 500人から500人

② 若年世代の集客と問題意識

- 空き店舗でのイベント開催により、多世代の集客があった。実際のイベントへの参加後に、継続して空き店舗の利活用を考え商店街への提案もあった。
- 「勉強できるスペースの確保、ガチャポンを置いて人を集める」

③ 商店街と地域団体の繋がり強化

- 商店街メンバーだけでは高齢化、組合員不足のため地域団体の協力を得てイベントなどを実施することができた。
- 地域団体からいろいろな意見を取り入れたり、一緒に取り組むことで、知恵や技術を身につけることが出来た。
- いろいろな人と交流することで、商店街メンバーのモチベーションUPに繋がった。

栄町商店街の活性化と魅力発信事業

事業後の取り組み

① 空き店舗の活用と広がり

- ・商店街に徐々に新たな店舗が増えてきている。さらに、若い世代や話題性のある新たな拠点ができることで、人通りが増え、次なる店舗進出に繋がっていく。
- ・店舗が増えていけば、商店街から地域全体へのにぎわい創出になっていく。

② 地域団体との関係の醸成

- ・現状の商店街メンバーだけでは活動に限界がある。
 - 地域メンバーとの関係を引き続き構築しつつ、来年度以降も関係性を強化しお互いに協力、相談できる関係を作る。
 - 商店街メンバーも世代交代を図り、未来の高梁を考え、築いていくメンバーの活躍に期待できる。

“つながり”と“継続”により幅広い世代が集まる

商店街を目指していく！